

薩摩治郎八 ざんま じろうはち 隨筆家、歌人。明治二十四年四月十二日東京生れ、
昭和五十一年二月二十日歿（九二一六）。大正七年オックスフォード
大學に留學、翌年パリに赴き、バルン薩摩の名で社交界に登場、藤田
嗣治、作曲家ラヴェル、畫家ミロ等と交遊。フランス大との文化交流に
努め、レジヨン・ドヌール勳章受章。またパリに留學生會館日本館と
私財を投じて建設、館長となる。昭和二十六年歸國して東京淺草に住
み、フランス物を材に筆を執つてゐたが、三十二年所波踊り見物の出
かけに折腦卒中で倒れ、爾來徳島に住居。

夙に歌集『銀絲集』（大正十一年十一月一日巴里・自刊）がある他、
『巴里・女・戦争』（昭和二十九年四月五日同光社）、『炎の女―セ
・シ・ボン』（昭和二十一年六月二十日松書房）、『ぶどう酒物語』
（昭和二十二年二月）千五百村山書店）、改訂新版『セ・シ・ボン―
わが半生の夢』（平成二年二月一日山文社）を著した。獅子文六の

『恒馬太郎治博』（昭和四十二年十一月二十日新潮社）はそのモデル
小説。

